

# 国土地理院の地理教育の支援に向けた取組

地理地殻活動研究センター長 宇根 寛

キーワード：地理教育，防災教育，学習指導要領，地理総合

## 1. 地理教育をめぐる動き

将来の予測が困難な複雑で変化の激しい社会，グローバル化が進展する社会の中で，地域や世界の多様性を理解し，持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決していく力を，次代を担う子供たち，若者たちに育んでいくことが求められている。

現在，中央教育審議会において進められている次期学習指導要領に関する議論においては，①地図やGISなどの汎用的な地理的技能の育成，②位置と分布，場所，地域などの空間概念を捉え追究する地理的な見方や考え方の育成，③グローバルな視点からの地域理解と課題解決の学習の展開，④持続可能な社会づくりに関わる資質・能力の育成の4つを柱とする地理教育の充実，強化が検討されている。特に，高等学校地歴科において，新たに「地理総合」(仮称)を必修科目とする議論が行われている。これが実現すれば，平成34年度からは生徒全員が地理を履修することとなる。

また，近年頻発する異常な気象現象や地震・津波災害，大規模な火山噴火や切迫する首都直下地震，南海トラフ巨大地震，津波の発生に備え，自らの命と生活を守るため，住民ひとりひとりが平常時から地域の災害リスクを理解し，自らの知識と情報に基づいて主体的に避難行動を判断することが求められている。災害発生時に児童，生徒が地域の防災の担い手となることは，東日本大震災においても実証されており，幼少期からの防災教育が急務である。地図や地理空間情報を用いて地域を理解することは防災の基本であり，その意味でも地理教育の充実が求められている。

国土地理院では，平成27年11月に院内に「地理教育支援チーム」を設置し，地理教育の現状と課題について調査を行うとともに，院幹部と支援チームのメンバーによる「地理教育勉強会」を平成28年5月までに8回実施し，国土地理院における地理教育支援のあり方について議論を行い，その結果を「地理教育の支援に向けた課題の整理と具体的取組への提言」としてとりまとめた。

## 2. 地理教育の課題～国土地理院の立場から

国土地理院がその解決に向けて貢献すべき地理教

育の課題を次のように整理した。

- 1) 若年層の基礎的な地理的知識の低下
- 2) 地理空間情報リテラシー教育の必要性
- 3) 高等学校における教育課程の問題
- 4) 地理を専門としない教員の支援
- 5) 十分活用されていない国土地理院の情報
- 6) 土地との関わりの希薄化
- 7) 防災教育の支援促進
- 8) 自主的活動のネットワーク

## 3. 国土地理院の具体的取組の提言

### 3.1 教育現場の支援

- ・教育支援ポータル（「教育の工具箱」）の構築（現場で使いやすい教材，素材，板書案の作成，提供）
- ・教員研究会，教員研修等への参加
- ・教科書会社への説明会
- ・地理空間情報リテラシー教育のあり方の検討
- ・現場との持続的なコミュニケーション

### 3.2 児童生徒と保護者へのアプローチ

- ・インターンシップ（サマースクール）
- ・地理系・測量系学科学生の就業先拡大支援
- ・地理オリンピック，地学オリンピック支援
- ・学校へ行こうプロジェクト：地方測量部による取組促進
- ・出前授業マニュアル，標準教材の作成
- ・児童生徒地図作品展：広報の強化
- ・地図と測量の科学館の活用，つくば地域の取組：来場学校数の拡大

### 3.3 防災教育支援の強化

- ・国土交通省防災課との連携，地方測量部と地方整備局，気象台によるチーム国交省での取組
- ・ハザードマップポータル，防災地理情報の充実

### 3.4 若年層に親しんでもらうために

- ・親しみやすいメディアや若年層に魅力的な活動の推進
- ・自発的活動をつなぐ「ひろば」づくり

### 3.5 継続的取組に必要な措置

- ・継続的取組のための措置の検討

## 参 考 文 献

中央教育審議会教育課程企画特別部会（2015）：論点整理。

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm)